

# 広瀬

広瀬鎌二建築展 SH+ 第1回 2022年生誕100年に向けて SH-1~SH-13

建築設計図(原図)+建築写真(平山忠治氏)+BIM+原寸鉄骨フレームモデル(SH-1の一部)

主催:広瀬鎌二アーカイブズ研究会 [hirose.archive@gmail.com](mailto:hirose.archive@gmail.com)

後援:日本イコモス国内委員会 DOCOMOMO Japan 一般社団法人 日本建築学会 公益社団法人 日本建築家協会  
東京都市大学 東京都市大学建築学科教室 東京都市大学同窓会 [校友会] 東京都市大学建築学科同窓会 [如学会]

## God is in the details

2018.11.22(木)▶26(月) 9:00~19:30

開催記念パーティ(会費制):23日(祝日)17:30~19:30 ギャラリーで開催  
パーティ開催時間は、出席者以外の方は展示会場に入れません。



建築会館ギャラリー (入場無料)

東京都港区芝5丁目26番20号

アクセス: JR田町駅、都営地下鉄三田駅 徒歩3分

# 鎌二

# 広瀬鎌二建築展 SH+ 第1回

『God is in the details』、ミース・ファン・デル・ローエの言葉を、広瀬鎌二の著した「伝統のディテール」が思い起こさせたと、ルイス・カーンは広瀬へ宛てた手紙の中に書いている。『神は細部に宿る』という建築のみならずあらゆる事象に普遍的な言葉でもあるが、建築の場合は特別な意味をもつ。ディテールを自ら考え、突き詰めていかないで済ませるような、現在の多くの設計行為に対してこの言葉の重みは図り知れない。

広瀬は戦後モダニズムの建築家として、「鉄骨の広瀬」として、「ディテールの広瀬」として評価されているが、日本建築を建築家の目で捉え直す歴史家の面もあった。また、1970年代のローマクラブの活動や「宇宙船地球号」で表される有限の地球という環境問題にも強い関心を示していた。

日本のインターナショナル建築運動をリードした蔵田周忠の薫陶を受けたということでは、戦後モダニズム建築の旗手の一人であったという評価も当たっていないが、蔵田が古民家の調査をしたり、豊口克平と形而工房を立ち上げて工業デザインの草分け的行動をしたりとしたような、多彩な面を広瀬が受け継いでいるともいえる。(もっとも、蔵田の不肖の弟子であったと広瀬自身は語っているが……)

木造の西京風の家でデビューし、SH1で鮮烈な印象を与え、SHシリーズを中心に活動し、鉄骨を使った新たな住宅建築を通して、構造、工法と意匠の合一をめざし、工業化を見据えて戦後の住宅の新たな地平に希望を与えた。

このことは東大寺再建の大勲進であった重源の存在抜きには考えられない。重源は限られた費用と限られた時間、そして限られた資材の中で、巨大建築を造り上げたが、広瀬の重源への憧れは半端なものではなく、そこに建築家としての理想像を見出していたと言える。「構造即意匠」を体現できる建築家が少なくなった現在、建築家をもっと歴史に学ぶべきなのだ。写真家平山忠治がSHシリーズを撮り続けたのは、平山が建築の求道者としての広瀬作品を評価していたことを示している。

広瀬は東京大学で博士号を取得し(論文名「建築部品の性能と精度に与える条件」)、1966年、蔵田亡き後の武蔵工業大学の教授として教育・研究活動に身を投じた。徹底した設計行為と事務所の経営が両立するはずもなく、新たな自分の展開を模索した結果でもあったろう。

『造』という雑誌の編集やD N I A S (環境と工業を考える会)の活動、そして70年安保時の学生達との対話を経て、近代合理主義の信奉者と評価されていた広瀬が近代主義に懐疑的となり、SHシリーズは終焉を迎え、木造に回帰していく。

広瀬鎌二とは? SHシリーズとは? この展示会は、一人の建築家の軌跡の中に潜む、戦後の建築の歴史の一隅を照らすことが目的である。

2018・05・07

広瀬鎌二アーカイブズ研究会 代表 矢野和之

平山忠治氏 撮影

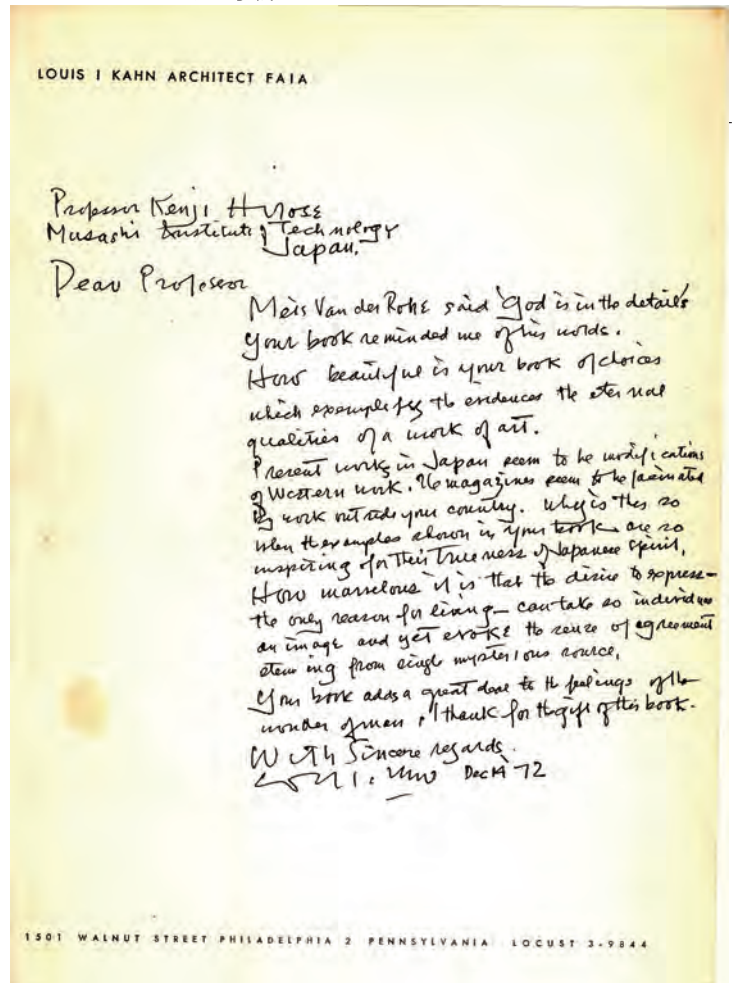


SH-1 1953年

SH-13 1957年



ルイス・カーンからの手紙



「伝統のディテール」をカーンに新居千秋氏を通じて送ったところ、自筆の感動的な手紙が送られてきた。1972年12月14日の日付から、1974年3月に死亡したカーン最晩年の手紙。

広瀬鎌二(1922年-2012年) 略歴

1942年旧制武蔵高等工科学校建築科卒業、井上工業入社 1944年応召により赤羽工兵隊入隊除隊後、海軍施設部山地地方事務所入所 1945年終戦、井上工業に復帰  
1946年東京木工設計部入社 1950年村田政真建築設計事務所入社 1951年広瀬鎌二建築技術研究所設立 1962年東京大学工学博士學位論文「建築部品の性能と精度に与える条件」  
1966年武蔵工業大学(現・東京都市大学)教授 1993年武蔵工業大学を定年退職、同大学名誉教授、広瀬研究室を設立 2012年2月7日逝去 89歳